

めぐみイエス・キリスト教会

2021年8月29日(日)第5主日礼拝
週報「通算第572号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌340「救い主イエスと」 p. 540

【交読文】 No.10詩篇第31篇 p. 886

【賛美Ⅱ】 新聖歌248「人生の海の嵐に」 p. 382

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.8「神様の愛の言葉」

【聖書朗読】 使徒の働き11章19節～24節(新約p. 257上段)

【礼拝説教】 《慰めの人バルナバ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1.「ステパノのことから起こった迫害」とは？

※使徒の働き8章1節～4節「迫害者サウロ」 (新約p.248上段)

8:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。

8:2 敬虔な人たちはステパノを葬り、彼のためにたいへん悲しんだ。

8:3 サウロは家から家に押し入って、教会を荒らし、男も女も引きずり出して、牢に入れた。

8:4 散らされた人たちは、み言葉の福音を伝えながら巡り歩いた。

●ポイント2.「クレネ人」とは？

※マルコの福音書15章21節「クレネ人シモン」 (新約p.103上段)

15:21 兵士たちは、通りかかったクレネ人シモンという人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。彼はアレクサンドロとルフォスの父で、田舎から来ていた。

※使徒の働き13章1節「アンティオキア教会」 (新約p.259下段)

13:1 さて、アンティオキアには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの預言者や教師がいた。

●ポイント3. 「バルナバ」とは？

※使徒の働き4章36節～37節「慰めの子と呼ばれ」 (新約p.240下段)

4:36 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちにバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていたヨセフも、

4:37 所有していた畑を売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

※使徒の働き9章26節～28節「エルサレムにて」 (新約p.251下段)

9:26 エルサレムに着いて、サウロは弟子たちの仲間に入ろうと試みたが、みな、彼が弟子であるとは信じず、彼を恐れていた。

9:27 しかし、バルナバはサウロを引き受けて、使徒たちのところに連れて行き、彼がダマスコへ行く途中で主を見た様子や、主が彼に語られたこと、また彼がダマスコでイエスの名によって大胆に語った様子を彼らに説明した。

9:28 サウロはエルサレムで使徒たちと自由に行き来し、主の御名によって大胆に語った。

※使徒の働き6章5節「七人の執事の選出」 (新約p.243下段)

6:5 この提案を一同はみな喜んで受け入れた。そして彼らは、信仰と聖霊に満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、そしてアンティオキアの改宗者ニコラオを選び、

◎先週のメッセージの概要【第一回教会会議への予兆】

《カイサリアからシモン・ペテロは再びヤッファに戻ったと思われます。皮なめし職人シモンの家为本拠地として、兄弟姉妹たちを教え導き続けていたと思われます。その頃、カイサリアにおいて異邦人にも主イエスの救いの扉の門が開かれたことが、エルサレムに在住する使徒や弟子たちに伝えられました。そこで、エルサレムに上って、詳しく報告をするようにと、ペテロに知らせが入ったのです。ペテロはヤッファの六人の兄弟たちを連れて、エルサレムに上ったのです。ペテロが到着しますと、主イエスを信じたユダヤ人で、割礼を受けている者たちが、非難して来たのです。「あなたは割礼を受けていない者たちと一緒に食事をした。」と。

すると、ペテロは穏やかに彼らに話し始めたのです。

「カイサリアへ、ここにいる六人の兄弟たちも同行して、私たちはその人の家に入りました。そこで、私が話し始めると、聖霊が初めに私たちの上に下ったのと同じように、彼らの上に下ったのです。私は主が、『ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは聖霊によるバプテスマを授けられる』と言われた言葉を思い起こしました。ですから、神が、私たちに下さったのと同じ賜物を、彼らにもお授けになったのなら、どうして私などが、神がなさることを妨げることができるでしょうか。」人々はこれを聞いて沈黙したのです。そして「それでは神は、命に至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ」と言って、神をほめたたえたのでした。

コルネリウスは、本当に、まことの神様を祈り求めたのです。真剣に求める者には、神様は必ず答えて下さいます。神様は与えて下さいます。その事について、主イエスは一つのたとえを弟子たちに話されました。それは、真夜中に訪ねて来て友人に、三つのパンを近所の友人から分けてもらおうと言う「三つのパン」の話です。このたとえは祈りの奥義を教えてください。あきらめることなく、祈り願い求めるならば、しつこさのゆえに私たちが友と呼んで下さる、友なる主イエスは必ず答えて下さるのです。》

◎お知らせ

※来月第一主日礼拝は、平常通り9月5日(日)午前10時から行ないます。聖書勉強会・祈り会は、9月1日(水)各家庭において行ないます。